

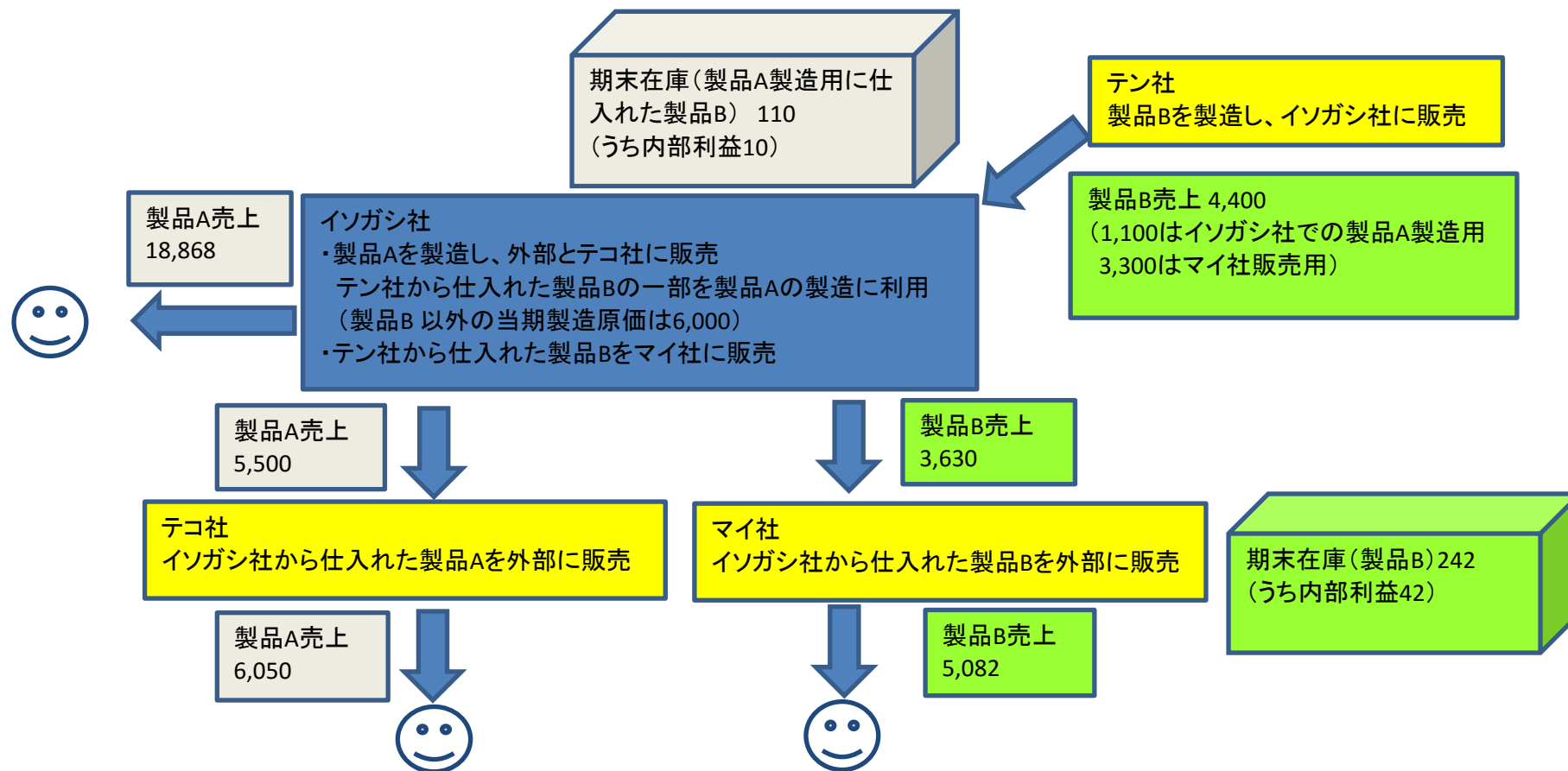
【設例】

イソガシ社（親会社）には、テン社・テコ社・マイ社の3つの100%子会社があり、連結財務諸表を作成しているとします。イソガシグループには、A事業（製品Aの製造・販売）とB事業（製品Bの製造・販売）の二つのセグメントがあるとします。各社の業務内容は以下のようになっています。

- ・イソガシ社 製品Aを製造し、外部とテコ社に販売
（テン社から仕入れた製品Bの一部を製品Aの製造に利用）
テン社から仕入れた製品Bをマイ社に販売
- ・テン社 製品Bを製造し、イソガシ社に販売
- ・テコ社 イソガシ社から仕入れた製品Aを外部に販売
- ・マイ社 イソガシ社から仕入れた製品Bを外部に販売

当期の連結グループ内の取引は以下のものであったとします。
期末在庫は以下のもの以外にはなく、期首在庫はなかったとします。

イソガシ社が製品A製造のためにテン社から製品Bを仕入れる取引は、セグメント間の取引に該当します。
これ以外は、セグメント内の取引になります。



【個別PL・セグメント情報・連結PL】

セグメント内取引を消去する。

	個別PL					セグメント情報						合計	調整	連結PL
	イソガシ社		テン社	テコ社	マイ社	単純合算	消去	A事業	単純合算	消去	B事業			
	A事業	B事業	B事業	A事業	B事業	A事業		B事業	B事業					
売上高														
外部への売上高	18,868	0	0	6,050	5,082	24,918		24,918	5,082		5,082	30,000		30,000
セグメント内売上高	5,500	3,630	3,300	0	0	5,500	-5,500	0	6,930	-6,930	0	0		0
セグメント間売上高	0	0	1,100	0	0	0		0	1,100		1,100	1,100	-1,100	0
合計	24,368	3,630	4,400	6,050	5,082	30,418	-5,500	24,918	13,112	-6,930	6,182	31,100	-1,100	30,000
売上原価														
製造原価	6,000	0	2,400	0	0	6,000		6,000	2,400		2,400	8,400		8,400
セグメント内仕入	0	3,300	0	5,500	3,630	5,500	-5,500	0	6,930	-6,930	0	0		0
セグメント間仕入	1,100	0	0	0	0	1,100		1,100	0		0	1,100	-1,100	0
期末在庫	-110	0	0	0	-242	-110		-110	-242		-242	-352		-352
小計	6,990	3,300	2,400	5,500	3,388	12,490	-5,500	6,990	9,088	-6,930	2,158	9,148	-1,100	8,048
内部利益控除										42	42	42	10	52
合計	6,990	3,300	2,400	5,500	3,388	12,490	-5,500	6,990	9,088	-6,888	2,200	9,190	-1,090	8,100
売上総利益	17,378	330	2,000	550	1,694	17,928	0	17,928	4,024	-42	3,982	21,910	-10	21,900

マイ社の在庫はセグメント内取引なので、内部利益を消去する。
イソガシ社の在庫はセグメント間取引なので、セグメント情報作成にあたっては内部利益を消去しない。

セグメント情報合計と連結PLとは、セグメント間取引の分が相違している。
セグメント間取引も消去すれば、連結PLと一致する。
(実際には、各セグメントに配分できない全社費用・全社資産などもあるので、これも調整欄で調整する。)